

第 二 外 科

【目的】

第二外科での実習対象症例は主に消化器外科（肝胆膵外科、上部消化管外科、下部消化管外科、内視鏡外科など）と移植外科（肝臓移植、腎臓移植、膵臓移植）であるが、治療対象の疾患のみにとらわれる事なく、術前・術後の全身管理を計画的、系統的に行うことを体験する。

【実習の重点】

医学科5年生の臨床実習での初歩的な診察、手術への参加からさらに進んで

- 1) 術前の検査データ解析、画像診断による全身状態および病態の評価
- 2) プレゼンテーション技術の習得
- 3) 術前・術後の全身管理
- 4) 基本的手術手技の習得とより高度なテクニックの学習
- 5) 病棟内指示系統を学び、医療スタッフとのコミュニケーション術の習得
- 6) 患者へのインフォームドコンセントならびにメンタル面の管理
- 7) 医学研究（トランスレーショナルリサーチ）カンファレンスへの参加

などの項目について、卒後5～10年目の中堅クラスの外科医に1対1について実習を行うシャドウプログラムを採用することにより、主治医と同じ立場で医療現場を体験し、自ら考え意見を発して積極的に議論に参加してもらい、卒後研修での即戦力、実践力を養うとともに外科学の幅広さと深さを体感してもらう。また、希望者においては、関連病院外科（中国労災病院、県立広島病院、東広島医療センター、呉医療センター）での5日間の臨床実習も経験できる。

スケジュール

	午前	午後
月	カンファレンス、総回診、病棟	病棟
火	回診、手術	手術、病棟
水	カンファレンス、回診、病棟	病棟
木	カンファレンス、回診、手術	手術、病棟
金	カンファレンス、回診、病棟	回診、病棟

注) 午前集合は7：30から。急患や緊急手術の場合はこの限りではない。

カンファレンスでは、術前・術後症例のプレゼンテーションを経験する。

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
手術の流れを把握し、術者と助手の役割について理解	10
周術期全身管理に必要な知識を理解	10
外科的処置（清潔操作、ガウンテクニック）に必要な知識と手技	10
外科基本手技（糸結び、皮膚縫合など）の理解と実践	10
理学的所見（腹部所見）の診断と報告	10
担当した主要疾患に関係する血液検査、画像診断の理解	10
担当した主要疾患の症候、病態、診断、治療方針、術後合併症の理解	10
担当した主要疾患のガイドライン、EBMの理解	10
患者、家族、医療スタッフとのコミュニケーション能力	10
プレゼンテーション能力	10

【担当教官】

大段 秀樹	教授	(肝胆膵外科、移植外科、上部・下部消化器外科)
田邊 和照	准教授	(上部消化器外科)
惠木 浩之	講師	(下部消化器外科)
小林 剛	特任講師	(肝胆膵外科、移植外科)
井手 健太郎	助教	(肝胆膵外科、移植外科)
大平 真裕	助教	(肝胆膵外科、移植外科)
田原 裕之	助教	(肝胆膵外科、移植外科)
黒田 慎太郎	助教	(肝胆膵外科、移植外科)
堀田 龍一	助教	(上部消化器外科)
清水 誠一	医科診療医	(肝胆膵外科、移植外科)
佐伯 吉弘	医科診療医	(肝胆膵外科、移植外科)
向井 正一郎	医科診療医	(下部消化器外科)
濱岡 道則	医科診療医	(肝胆膵外科、移植外科)
河内 雅年	医科診療医	(下部消化器外科)